

お知らせ

平成12年1月11日
海洋科学技術センター
宇宙開発事業団

「H-IIロケット8号機」の第1段ロケットの3次調査の終了について

海洋科学技術センター（理事長 平野拓也）及び宇宙開発事業団（理事長 内田勇夫）は、海洋科学技術センター所有の支援母船「なつしま」及び無人探査機「ドルフィン-3K」を使用し、2次調査でエンジン等の確認された海域（[図1](#)、[図2](#)）にて、1月8日（土）から1月10日（月）まで3次調査を実施しました。

今回の調査では、「ドルフィン-3K」搭載の2台の高性能TVカメラにより、エンジン本体、ノズルスカート部等のビデオ撮影に成功しました（資料1）。また、マニピュレータとグラバを駆使し、液体水素バルブや付属配管等の部品13点（資料1-1）を回収し、初期の目的を達成しました。

今回の調査で得られた、画像及び回収された部品は、宇宙開発事業団において、事故原因の解明に使用します。

また、宇宙開発事業団は、今回の調査結果に基づき、エンジンの回収を行うこととしました（資料2）。

問い合わせ先
海洋科学技術センター 普及・広報課 他谷（たや）、小林、木村
TEL 0468-67-3806
宇宙開発事業団 広報室 福室、高橋
TEL 03-3438-6107

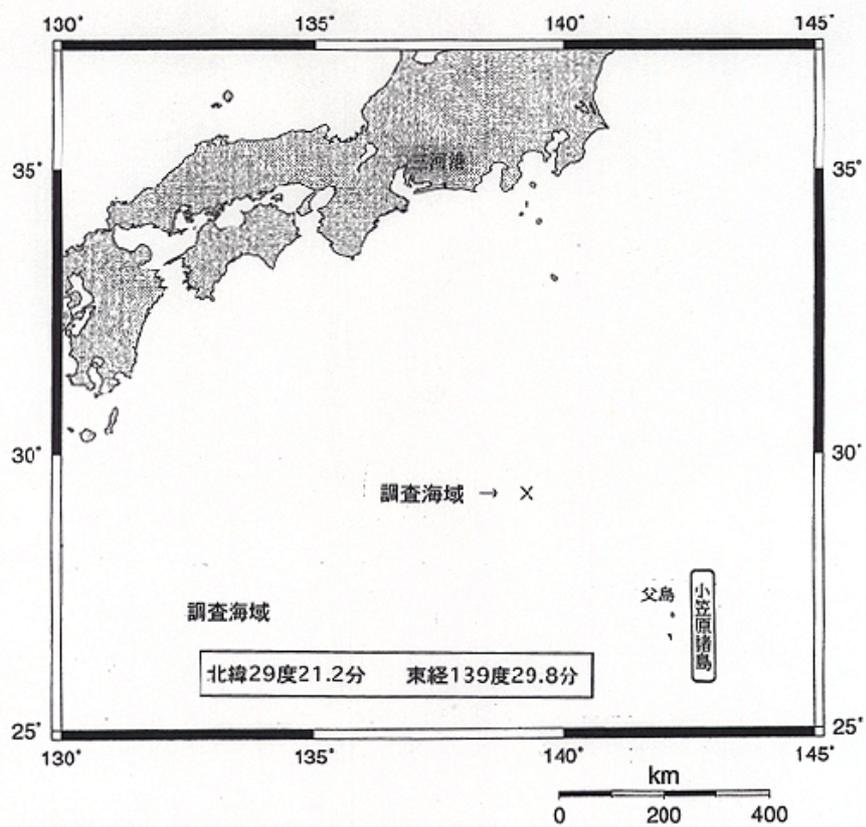


図1 海域図

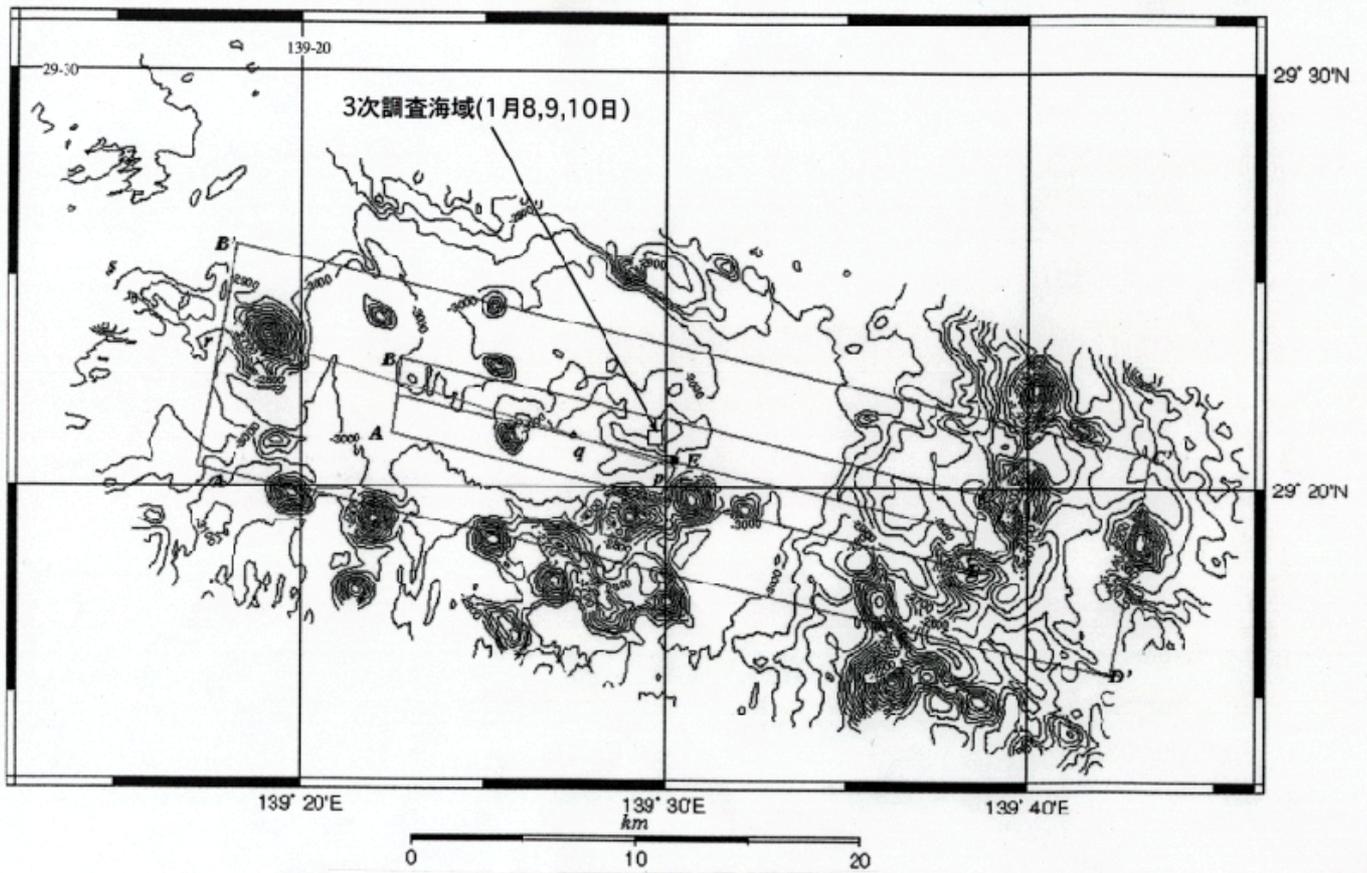


図2 調査海域の海底地形図